

# 認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者認定制度規則

## (目的)

第1条 この制度は、組織適合性に関する専門知識並びに精度の高い検査の施行を通じて、医療及び社会へ貢献できる認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者の育成を目的とする。

## (定義)

第2条 認定 HLA 検査技術者とは、HLA 検査に関する基礎的な知識を有し、HLA 検査を正確に行える技能を有する者をいう。

(1) 認定 HLA 検査技術者の英語名称は、Certified HLA Technologist (JSHI) とする。

(2) 認定 HLA 検査技術者の英語略称は、HT/JSHI とする。

2 認定組織適合性指導者とは、HLA 検査に関する広範な知識を有し、かつ指導的立場に立てる者をいう。

(1) 認定組織適合性指導者の英語名称は、Certified Director for Histocompatibility (JSHI) とする。

(2) 認定組織適合性指導者の英語略称は、DH/JSHI とする。

## (組織適合性技術者認定制度委員会)

第3条 組織適合性技術者認定制度委員会(以下「委員会」という。)は、認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者認定制度に関する必要事項を審議する。

2 委員会は、第1条の目的を達成するために、認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者を認定する。

3 委員会の組織、運営については別に定める。

## (指定履修課程)

第4条 委員会は、認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者育成のために、認定 HLA 検査技術者認定制度指定履修課程(以下「技術者履修課程」という。)及び認定組織適合性指導者認定制度指定履修課程(以下「指導者履修課程」という。)を別に定める。

## (認定 HLA 検査技術者認定制度指定施設)

第5条 認定 HLA 検査技術者育成のために、適当と認められた施設を認定 HLA 検査技術者認定制度指定施設(以下「指定施設」という。)として認定する。

2 委員会は、認定した施設に対して、「認定 HLA 検査技術者認定制度指定施設認定証」を交付する。ただし、認定証の有効期間は5年とする。

3 指定施設は、5年ごとに更新の手続きをしなければならない。

4 指定施設は、次の場合に認定が解除される。

(1) 第5条第1項に該当しなくなったとき。

(2) 指定施設の認定を辞退したとき。

(3) 更新手続きを行わなかったとき。

## (認定 HLA 検査技術者認定制度指定施設の基準)

第6条 指定施設は、次の各項のすべてを備えていなければならない。

(1) 認定組織適合性指導者または HLA 検査技術者が勤務し、組織適合性検査に関する教育指導体制

がとられていること。

- (2) 研修に関する要員、設備等が十分であること。
  - (3) 備えるべき組織適合性検査の内容については別に定める。
- 2 外国における施設については委員会が別に定める。

(指定施設の認定及び認定更新)

第7条 指定施設の認定及び認定更新については、委員会の審議による。

(認定 HLA 検査技術者の認定試験受験資格基準及び申請手続き)

- 第8条 認定 HLA 検査技術者の認定試験受験資格基準は、申請の前年度までに次の各項のすべてを備えていなければならない。
- (1) 日本組織適合性学会(以下「学会」という。)の会員歴が通算して3年以上あること。
  - (2) 組織適合性検査に関する業務経験が3年以上あること。
  - (3) 5年間で技術者履修課程に定められた講習の受講歴があること。
  - (4) 別表により、5年間で資格審査基準が30単位以上あること。但し、当学会の大会への参加が5単位以上含まれていなければならない。
- 2 認定 HLA 検査技術者の認定試験の受験を申請しようとする者は、次の各項の書類を委員会事務局に所定の期日までに提出しなければならない。
- (1) 認定 HLA 検査技術者認定試験受験申請書(別記様式第1)
  - (2) 資格・更新審査基準証明書(別記様式第2)
  - (3) 講習修了証の写し
- 3 認定 HLA 検査技術者の認定試験の受験を申請する者は、受験料を委員会事務局に所定の期日までに納入しなければならない。
- (1) 受験料は、15,000円とする。

(認定 HLA 検査技術者申請者の認定資格審査、研修、試験及び登録)

第9条 委員会は、年1回申請書類に基づき申請者の資格審査を行う。

- 2 資格基準を満たす申請者は、委員会が定めた技術者履修課程に基づき指定施設で所定の実技等の研修を受講しなければならない。
- 3 研修の日時、場所等は資格審査終了後に各申請者に文書で通知する。
- 4 委員会は、実技等の研修が修了した者に対して、年1回試験(実技試験を含む)を行う。但し、実技試験はQCワークショップの参加歴がある場合には免除される。
- 5 認定試験に不合格の場合、研修歴は翌年の試験まで有効とする。
- 6 委員会は、認定 HLA 検査技術者としての適否を審査し、適格者を認定 HLA 検査技術者として「認定 HLA 検査技術者認定登録原簿」に登録する。

(認定 HLA 検査技術者の認定効力)

第10条 認定 HLA 検査技術者の資格は認定登録原簿に登録後発効する。

- 2 登録者には登録時に「認定 HLA 検査技術者認定証」を学会の会長から交付する。
- 3 登録者は、日本組織適合性学会誌に公告する。
- 4 認定証の有効期間は、登録した日から5年とする。

(認定 HLA 検査技術者の認定登録更新資格基準及び申請手続き)

第11条 認定 HLA 検査技術者の認定更新申請資格基準は、更新の前年度までに次の各項のすべてを備えていなければならない。

- (1) 認定証の登録年度から5年間に別表により資格審査基準が30単位以上あること。但し、当学会の大会への参加が5単位以上含まれていなければならない。
- (2) 認定証の有効期間満了前の2年間に技術者履修課程に定められた講習を1回以上受講していること。
- (3) 認定証の登録年度から5年間に学会が主催するQCワークショップ集会への参加があること。
- 2 登録更新の申請をする者は、認定証の有効期間満了の一ヶ月前から満了日までに委員会事務局に次の各項の書類を提出しなければならない。
  - (1) 認定 HLA 検査技術者認定登録更新申請書（別記様式第3）
  - (2) 資格・更新審査基準証明書（別記様式第2）
  - (3) 講習修了証の写し
- 3 認定 HLA 検査技術者の認定更新を申請する者は、登録更新料を委員会事務局に所定の期日までに納入しなければならない。
  - (1) 登録更新料は、15,000円とする。

（認定組織適合性指導者の認定試験受験資格基準及び申請手続き）

- 第12条 認定組織適合性指導者の認定試験受験資格基準は、申請の前年度までに次の各項のすべてを備えていなければならない。
- (1) 認定 HLA 検査技術者として登録された年度から3年を経過した者。
  - (2) 学会の会員歴が通算して7年以上あること。
  - (3) 組織適合性検査に関する業務経験が7年以上あること。
  - (4) 5年間で指導者履修課程に定められた講習の受講歴があること。
  - (5) 5年間で学会が主催するQCワークショップ集会の参加歴があること。
  - (6) 別表により、5年間で資格審査基準が70単位以上あること。但し、当学会の大会への参加が10単位以上含まれていなければならない。
  - 2 認定組織適合性指導者の認定試験の受験を申請しようとする者は、次の各項の書類を委員会事務局に所定の期日までに提出しなければならない。
    - (1) 認定組織適合性指導者認定試験受験申請書（別記様式第4）
    - (2) 資格・更新審査基準証明書（別記様式第2）
    - (3) 講習修了証の写し
  - 3 認定組織適合性指導者の認定試験の受験を申請する者は、受験料を委員会事務局に所定の期日までに納入しなければならない。
    - (1) 受験料は、30,000円とする。

（認定組織適合性指導者認定申請者の認定資格審査、試験及び登録）

- 第13条 委員会は、年1回申請書類に基づき申請者の資格審査を行う。
- 2 委員会は、資格基準を満たす申請者に対して、年1回試験を行う。
  - 3 委員会は、認定組織適合性指導者としての適否を審査し、適格者を認定組織適合性指導者として「認定組織適合性指導者認定登録原簿」に登録する。

（認定組織適合性指導者の認定効力）

- 第14条 認定組織適合性指導者の資格は認定登録原簿に登録後発効する。
- 2 登録者には登録時に「認定組織適合性指導者認定証」を学会の会長から交付する。
  - 3 登録者は日本組織適合性学会誌に公告する。
  - 4 認定証の有効期間は、登録した日から5年とする。

( 認定組織適合性指導者の認定登録更新資格基準及び申請手続き )

- 第 15 条 認定組織適合性指導者の認定更新申請資格基準は、更新の前年度までに次の各項のすべてを備えていなければならない。
- (1) 認定証の登録年度から 5 年間に別表により更新資格審査基準が 70 単位以上あること。但し、日本組織適合性学会誌における原著論文、総説、または学会の大会における発表が 15 単位以上含まれていなければならない。また、原則として当学会の大会への参加が 15 単位以上含まれていなければならない。
  - (2) 認定証の有効期間満了前の 2 年間に指導者履修課程に定められた講習会を 1 回以上受講していること。
  - (3) 認定証の登録年度から 5 年間に学会が主催する QC ワークショップ集会への参加歴があること。
- 2 登録更新の申請をする者は、認定証の有効期間満了の 1 ヶ月前から満了日までに委員会事務局に次の各項の書類を提出しなければならない。
- (1) 認定組織適合性指導者認定登録更新申請書 ( 別記様式第 5 )
  - (2) 資格・更新審査基準証明書 ( 別記様式第 2 )
  - (3) 講習修了証の写し
- 3 認定組織適合性指導者の認定更新を申請する者は、登録更新料を委員会事務局に所定の期日までに納入しなければならない。
- (1) 登録更新料は、30,000 円とする。

( 認定組織適合性指導者の認定更新基準を満たさない場合の措置 )

- 第 16 条 第 15 条第 1 項の更新申請資格基準を満たさない者であっても、第 11 条第 1 項の更新申請資格基準を満たしている場合には認定 HLA 検査技術者として更新することができる。
- 2 申請手続きは、第 11 条第 2 項及び第 3 項に従う。
- 3 次回の更新時に認定組織適合性指導者の更新申請資格基準を満たしていれば、認定組織適合性指導者へ認定変更することができる。

( 認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者認定証の記載事項変更手続き )

- 第 17 条 認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者認定証の記載事項に変更が生じた者は、すみやかに委員会事務局に認定証記載事項変更申請書 ( 別記様式第 6 ) を提出しなければならない。
- 2 変更手数料は、2,000 円とする。

( 認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者認定証の再交付手続き )

- 第 18 条 認定証を紛失、破損などにより認定証の再交付を申請しようとする者は、別記様式第 7 でそれを気が付いた日から 30 日以内に申請しなければならない。
- 2 再交付手数料は、2,000 円とする。

( 認定の取り消し )

- 第 19 条 認定 HLA 検査技術者及び認定組織適合性指導者は次の各項の事由によりその資格を取り消される。
- (1) 認定 HLA 検査技術者又は認定組織適合性指導者の認定更新をしなかったとき。
  - (2) 学会を退会したとき。
  - (3) 認定 HLA 検査技術者又は認定組織適合性指導者としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項(3)の判定は、委員会が審議に基づき、これを行う。

(規則の変更)

第20条 この規則の変更は、委員会及び学会の理事会並びに評議員会の議決を経たのち、学会の総会の承認を得なければならない。

(細則)

第21条 この規則の実施に関し必要事項は、委員会の議決を経たのち、学会の理事会及び評議員会の承認を得て別に定める。

附 則

この規則は、平成13年11月2日から施行する。

平成14年9月25日改正

この規則が施行された日から2年間に限り、認定組織適合性指導者の認定は、別に定める資格特例認定実施要領によって実施する。

平成14年度の認定HLA検査技術者の認定試験は、別に定める認定HLA検査技術者認定試験実施要領によって実施する。

(平成14年9月25日追加)

平成15年度の認定HLA検査技術者の認定試験は、別に定める認定HLA検査技術者認定試験実施要領によって実施する。

別表（第8条、第11条、第12条及び第15条関係）

種 類	単 位 数	備 考
原 著 論 文	筆頭者は一つにつき15単位とする。	日本組織適合性学会誌に限る。
	共著者は一つにつき10単位とする。	
	筆頭者は一つにつき10単位とする。	上記以外の組織適合性に関連するものに限る。
	共著者は一つにつき7単位とする。	
著 書 ・ 総 説	筆頭者は一つにつき10単位とする。	組織適合性に関連するものに限る。
	共著者は一つにつき7単位とする。	
学 会 発 表	筆頭者は一つにつき10単位とする。	日本組織適合性学会大会に限る。
	共著者は一つにつき7単位とする。	日本組織適合性学会地方会、米国組織適合性学会大会、欧州組織適合性学会大会、国際組織適合性ワークショップ及びアジア・オセアニア組織適合性ワークショップ、オーストラリア・東南アジア組織適合性検査学会に限る。
	筆頭者は一つにつき7単位とする。	
	共著者は一つにつき5単位とする。	
	筆頭者は一つにつき5単位とする。	上記以外の組織適合性に関連するものに限る。但し、抄録記録があるもの。
共著者は一つにつき3単位とする。		
学 会 参 加	一回につき5単位とする。	日本組織適合性学会大会に限る。
	一回につき3単位とする。	日本組織適合性学会地方会、米国組織適合性学会大会、欧州組織適合性学会大会、国際組織適合性ワークショップ及びアジア・オセアニア組織適合性ワークショップ、オーストラリア・東南アジア組織適合性検査学会に限る。
	一回につき2単位とする。	上記以外の組織適合性に関する学会に限る。但し、5年間で10単位を限度とする。
実 技 研 修 参 加	一回につき5単位とする。	但し、認定HLA検査技術者の更新時において更新資格審査基準が規定単位数に達しない場合に限り5単位まで認める。
講 習 会 参 加	一回につき5単位とする。	日本組織適合性学会または組織適合性技術者認定制度委員会が主催するものに限る。
	一回につき2単位とする。	日本組織適合性学会または組織適合性技術者認定制度委員会が主催する以外の講習会で委員会が承認したものに限り、5年間で10単位まで認める。但し、認定HLA検査技術者に限る。
QCワークショップ 集 会 参 加	一回につき5単位とする。	